

成田市
こども計画策定に係る意見聴取等

結果報告書

令和6年7月

成 田 市

□ ■ 目 次 ■ □

調査の概要.....	1
1. こども・若者の意見聴取	1
(1) こどもワークショップ.....	1
(2) 大学生からの意見聴取.....	1
(3) こどもアンケート.....	2
(ア) 子ども館「ふれあいひろば」利用者アンケート（小学生・中学生対象）	2
(イ) こども食堂利用者アンケート.....	3
(ウ) 子ども向けイベントアンケート（中学生対象）	4
(エ) シールアンケート（幼児及び未就学児対象）	5
2. 子育て当事者の意見聴取	6
(1) 子育て当事者アンケート.....	6
(ア) 子ども館「なかよしひろば」利用者アンケート（保護者対象）	6
(イ) 子ども向けイベントアンケート（保護者対象）	6
(ウ) 母子健康手帳申請者アンケート.....	7
(エ) 健診対象者アンケート.....	8
(2) 子育て当事者との座談会等ヒアリング.....	8
(3) 子育て当事者ワークショップ.....	10
3. 子育て支援関係団体等からの意見聴取	15
(1) 子育て支援関係団体アンケート.....	15
(2) 児童福祉施設ヒアリング.....	17
(3) 子ども食堂運営団体ヒアリング.....	17
4. 全市民を対象とした意見聴取	19

調査の概要

令和6年1月から3月にかけて実施した①「子育て支援ニーズ調査」、②「子ども・若者意識調査」（令和6年5月に追加調査も実施）及び③「生活実態調査」に係るアンケート調査結果については、別添報告書にとりまとめたとおりである。

これらの調査に加え、さらなる意見聴取を行うため、①「こども・若者」、②「子育て当事者」、③「子育て支援関係団体等」及び④「全市民」を対象に、意見聴取を実施したことから、その結果について次のとおり報告するものである。

1. こども・若者の意見聴取

（1）こどもワークショップ

次のとおり2度のワークショップを開催した。結果は別添報告書のとおりである。

- ① 中学生・高校生対象：6月2日（日）、子ども館で開催。参加者26名。
- ② 小学生対象：6月23日（日）、子ども館で開催。参加者19名。

（2）大学生からの意見聴取

国際医療福祉大学において、大学生を対象に、居場所や子育て世帯の住環境に関するアンケート調査を実施した。

実施期間	令和6年7月12日
回答数	150人

① 大学での講義以外の時間をどのように過ごしているか（複数回答可）

- ・スマートフォンやパソコン、タブレットを使う（82.7%）
- ・家族・知人とおしゃべりする（82.0%）
- ・勉強をする（54.0%）

② あなたにとっての「居場所（ここにいたいと感じる場所）」（複数回答可）

- ・自分の部屋（自分の家）（85.3%）
- ・家族と一緒にくつろぐ部屋（自分の家）（66.7%）
- ・大学・学校（28.0%）

③ 過ごしたい・過ごしやすいと思う場所（複数回答可）

- ・いつでも行きたいときに行けて、好きなだけいられる場所（74.7%）
- ・一人で過ごせたり、落ち着いてくつろげたりする場所（71.3%）
- ・好きなものがあったり、好きなことをして自由に過ごせる場所（56.7%）

④ 結婚しやすい環境づくりに効果的な支援（複数回答可）

- ・ 結婚した方向けの税制や社会保障 (42.7%)
- ・ 男女の出会いの場の提供 (42.0%)
- ・ 安定した住居・住宅の提供 (40.7%)

⑤ 若者や子ども、子育て世帯が住みやすい成田になるための提案（自由記述）

- ・ 商業施設の拡大と遊び場の充実
- ・ 公共交通機関の利便性の向上
- ・ 職域保健との連携

（３）こどもアンケート

（ア）子ども館「ふれあいひろば」利用者アンケート（小学生・中学生対象）

子ども館の小学生・中学生を対象とした「ふれあいひろば」において、利用者を対象に、居場所に特化したアンケート調査を実施した。

実施期間	令和6年5月17日～令和6年6月17日
回答数	45人

① 子ども館はあなたにとってどんな場所ですか。

- ・ 好きなものがあったり、好きなことをして自由にすごせる場所 (68.8%)
- ・ いつでも行きたいときに行けて、好きなだけいられる場所 (55.6%)
- ・ 友だちや親しい人とのつながりの中で安心していられる場所 (46.7%)
- ・ スポーツや外遊びなど体を思い切り動かせる場所 (46.7%)
- ・ いろいろなイベントがあり、自分の好きなものに参加できる場所 (44.4%)
- ・ いろんな人と出会える場所 (42.2%)
- ・ 一人ですごせたり、落ち着いてのんびりできたりする場所 (33.3%)
- ・ 自分の意見や希望を受け入れてもらえる場所 (28.8%)
- ・ 新しいことを学べたり、やりたいことにチャレンジできる場所 (28.9%)
- ・ 信頼できるスタッフがいる場所 (24.4%)
- ・ おとなに指図されたり、強制されたりしない場所 (24.4%)
- ・ ありのままでいられる、自分を否定されない場所 (22.2%)
- ・ 悩みごとの相談にのってもらえたり、一緒に遊んでくれる大人がいる場所 (17.8%)
- ・ その他 (2.2%)

② 子ども館に来てどんな変化がありましたか。

- ・生活の中で楽しみなことが増えた (55.6%)
- ・友だちが増えた (42.2%)
- ・新しく好きになったことがある (40.0%)
- ・気軽に話せるおとなが増えた (35.6%)
- ・ほっとできる時間が増えた (33.3%)
- ・勉強がわかるようになった (22.2%)
- ・勉強する時間が増えた (22.2%)
- ・本を読む時間が増えた (20.0%)
- ・特に変化はなかった (17.8%)
- ・初めて知ったことがある (11.1%)
- ・その他 (6.6%)

③ 放課後などにどこで過ごすのが好きですか。

- ・公園などの外遊びができる場所 (37.8%)
- ・子ども館 (20.0%)
- ・部活動の場所 (15.6%)
- ・その他 (26.6%)

④ 自由記載

- ・環境に関すること（ゴミ箱の設置や、ポイ捨ての禁止）
- ・スポーツ施設がほしい

(イ) こども食堂利用者アンケート

市内の「こども食堂」において、運営者へのヒアリングに加え、利用者を対象に、居場所に特化したアンケート調査を実施した。

実施期間	令和6年5月18日・令和6年5月25日
回答数	50人

① こども食堂はあなたにとってどんな場所ですか。

- ・いろいろな人と出会える場所 (64.0%)
- ・友だちや親しい人とのつながりの中で安心していられる場所 (60.0%)
- ・好きなものがあったり、好きなことをして自由にすごせる場所 (56.0%)
- ・いつでも行きたいときに行けて、好きなだけいられる場所 (50.0%)
- ・スポーツや外遊びなど体を思い切り動かせる場所 (44.0%)
- ・いろいろなイベントがあり、自分の好きなものに参加できる場所 (44.0%)
- ・新しいことを学べたり、やりたいことにチャレンジできる場所 (38.0%)

- ・信頼できるスタッフがいる場所 (38.0%)
- ・おとなに指図されたり、強制されたりしない場所 (34.0%)
- ・一人ですごせたり、落ち着いてのんびりできたりする場所 (34.0%)
- ・ありのままでいられる、自分を否定されない場所 (26.0%)
- ・自分の意見や希望を受け入れてもらえる場所 (26.0%)
- ・悩みごとの相談にのってもらえたり、一緒に遊んでくれる大人がいる場所 (20.0%)
- ・その他 (14.0%)

② こども食堂に来てどんな変化がありましたか。

- ・栄養のある食事をとれることが増えた (60.0%)
- ・生活の中で楽しみなことが増えた (58.0%)
- ・気軽に話せるおとなが増えた (46.0%)
- ・ほっとできる時間が増えた (44.0%)
- ・友だちが増えた (36.0%)
- ・新しく好きになったことがある (34.0%)
- ・勉強する時間が増えた (24.0%)
- ・勉強がわかるようになった (22.0%)
- ・初めて知ったことがある (14.0%)
- ・特に変化はなかった (2.0%)
- ・その他 (2.0%)

③ 放課後などにどこで過ごすのが好きですか。

- ・学童（児童ホーム） (44.0%)
- ・公園などの外遊びができる場所 (12.0%)
- ・公民館・図書館 (12.0%)
- ・その他 (26.6%)

④ 自由記載

- ・居場所がほしい（無料のテーマパーク、落ち着ける場所、気軽に誰でも行ける場所、友だちと遊べる場所）
- ・安全（不審者がいなくなる、喧嘩や暴力・犯罪のない生活）

(ウ) 子ども向けイベントアンケート（中学生対象）

子どもが集うお祭り等に出張し、中学生を対象にアンケート調査を実施した。

実施期間	令和6年5月4日・5日・11日
回答数	56人

① 放課後などにどこで過ごすのが好きですか。

- ・部活動の場所 (50.0%)
- ・公園などの外遊びができる場所 (30.4%)
- ・その他 (19.6%)

② 自由記載

- ・交流できる場所を作るほしい
- ・広い公園を作ってほしい
- ・アミューズメント施設を作ってほしい

(エ) シールアンケート（幼児及び未就学児対象）

子どもが集うイベント等に出張し、未就学児及び小学生を対象に、居場所に特化したシールアンケート調査を実施。

実施期間	令和6年5月4日～令和6年6月28日
回答数	1,233人

① 小学生が好きな遊び場（こども館）

- ・公園 (32.6%)
- ・公園など外遊びができる場所 (30.8%)
- ・その他 (36.6%)

② 未就学児好きな遊び場（イベント会場）

- ・公園 (37.9%)
- ・室内の遊び場 (32.8%)
- ・その他 (29.3%)

③ 小学生が好きな遊び場（イベント会場）

- ・公園など外遊びができる場所 (58.1%)
- ・その他 (41.9%)

④ 未就学児好きな遊び場（市内保育園・幼稚園）

- ・公園 (37.9%)
- ・室内の遊び場 (32.8%)
- ・その他 (29.3%)

2. 子育て当事者の意見聴取

(1) 子育て当事者アンケート

(ア) 子ども館「なかよしひろば」利用者アンケート（保護者対象）

子ども館の乳幼児を対象とした「なかよしひろば」において、保護者を対象にアンケート調査を実施した。

実施期間	令和6年5月17日～令和6年6月21日
回答数	131人

① 子どもを連れて出掛ける際の困りごとや不便に感じたこと（複数回答可）

- ・室内の遊び場が少ない (50.4%)
- ・歩道等が狭く危ないと感じる (39.7%)
- ・こどもと出かける場所が少ない (33.6%)

② 出産しやすい環境づくりに効果的な支援（複数回答可）

- ・妊娠出産時の経済的負担の軽減 (74.0%)
- ・産休・育休制度の充実 (69.5%)
- ・出産や子育てをしながらでも働き続けられるような職場環境の充実 (62.6%)

③ 自由記載

- ・経済的な支援をお願いしたい(給付金、結婚、住宅、おむつ・ミルク、給食費など)
- ・児童ホームを入りやすくしてほしい

(イ) 子ども向けイベントアンケート（保護者対象）

こどもが集うイベント等に出張し、こどもの保護者を対象にアンケート調査を実施した。

実施期間	令和6年5月4日・5日・11日
回答数	152人

① 放課後に子どもに過ごしてほしい場所（小学生に対して）

- ・公園など外遊びができる場所 (45.8%)
- ・学童（児童ホーム） (32.7%)
- ・その他 (21.5%)

② 放課後に子どもに過ごしてほしい場所（中学生に対して）

- ・部活動 (75.3%)
- ・塾や習い事等 (11.0%)
- ・その他 (13.7%)

③ 自由記載

- ・経済的な支援をお願いしたい(給付金、結婚、住宅、おむつ・ミルク、給食費など)
- ・児童ホームを入りやすくしてほしい
- ・子どもの居場所を作してほしい(こどもが気軽に遊べる場所など)
- ・公園や遊び場所に関すること(公園の整備、大型遊具の設置、室内の遊び場など)

(ウ) 母子健康手帳申請者アンケート

こども家庭センターで母子手帳を発行した妊産婦を対象に、アンケート調査を実施した。

実施期間	令和6年5月9日～令和6年7月18日
回答数	12人

① 出産しやすい環境づくりに効果的な支援

- ・産休・育休制度の充実 (100.0%)
- ・妊娠・出産時の経済的負担の軽減 (100.0%)
- ・相談、地域のサポート体制の充実 (66.7%)

② 子育てしやすい環境づくりに効果的な支援

- ・子育てがしやすい税制や社会保障 (83.3%)
- ・育児休暇制度の充実 (75.0%)
- ・育児休暇取得の推奨 (75.0%)
- ・子どもの人数に応じた経済的支援 (75.0%)

③ 自由記載

- ・インパクトのある経済的支援
- ・育休や有給取得の働きかけ
- ・ベビーシッターや家事代行サービス等を行政サービスとして利用できるという
- ・保育園や幼稚園における子育て支援のイベント等の充実
(支援内容の紹介、子どもだけでなく両親も楽しめるイベント)

(工) 健診対象者アンケート

子どもの定期健診で保健福祉館に来館した保護者を対象に、アンケート調査を実施した。

実施期間	令和6年5月9日～令和6年7月18日
回答数	71人

① 出産しやすい環境づくりに効果的な支援

- ・子育てしながら働き続けられる職場環境の充実 (80.3%)
- ・妊娠・出産時の経済的負担の軽減 (78.9%)
- ・産休・育休制度の充実 (77.5%)

② 子育て中の困りごとや不便を感じたこと

- ・室内の遊び場が少ない (66.2%)
- ・こどもと出かける場所が少ない (47.9%)
- ・公共交通機関が使いづらい (43.7%)
- ・歩道等が狭く危ないと感じる (40.8%)

③ 自由記載

- ・経済的な支援をお願いしたい
(保育料や医療費の無償化、出産費助成、児童手当の増額おむつ・ミルクなど)
- ・育休や有給取得の働きかけ
- ・ベビーシッターや家事代行サービス等を行政サービスとして利用できるといい
- ・医療体制の充実(予約がとりやすい、当日でも受診ができるように)
- ・子どもが遊べる場所の充実
(大きな公園の増設や遊具の充実・おむつ替え台やトイレの整備、室内の遊び場所の設置)
- ・幼児教育の充実(市での習い事の実施、月謝の助成、保育園から習い事までの送迎)
- ・交通の利便性向上(バスの本数を増やす、駅の設置、駅のホームドア設置など)

(2) 子育て当事者との座談会等ヒアリング

なかよしひろば3か所において、保護者を対象に、合計6回の座談会方式のヒアリングを実施した。

実施場所	実施日	参加者数
子ども館	6月12日(水), 20日(木)	13名
公津の杜なかよしひろば	6月21日(金), 7月3日(水)	22名
三里塚なかよしひろば	6月11日(火), 19日(水)	31名

▶ ① なかよしひろばを利用してよかったこと

- ・保護者同士、子ども同士の交流ができ、友だちが増えた。
- ・先輩ママから幼稚園などの情報がもらえた。
- ・自宅以外の室内の遊び場として利用できる、雨の日や暑い日でも遊べる。
- ・イベントが楽しい。子どもの発達にもつながる。
- ・情報収集ができる。
- ・リフレッシュができる、外出するきっかけになる。
- ・気軽に相談ができる、子育てについて学べる、先生が優しい。
- ・人見知りが解消された。
- ・おもちゃがたくさんあり、子どもの知育に良い。
- ・引っ越してきて、地域のことを知る最初のきっかけとして入りやすかった。

▶ ② 利用した子育て支援サービスでよかったと思うサービス

- ・一時保育
- ・子どもの医療費助成
- ・産後ケア
- ・療育支援事業
- ・病児保育
- ・チーパス
- ・保育園や幼稚園の園開放

▶ ③ 子育てをしている中で困ったことや困っていること

困ったことを解決するために利用した子育て支援サービスやもっとこうなっていてほしいと思うこと

I 子育て支援サービスに関すること

- ・一時保育を使いやすくしてほしい。近隣の保育園での一時保育を実施してほしい。一時保育の予約を取りやすくしてほしい。週2回以上利用したい。
- ・保護者の体調不良時のサポート。配偶者不在時に運転ができないくらいの体調不良となった時の送迎サービスや、託児があると嬉しい。
- ・産後ケアを4か月以上に伸ばしてほしい。上の子どもと一緒に泊まれるようにしてほしい。双子や年子は利用回数を増やしてほしい。

II なかよしひろばに関すること

- ・なかよしひろばで一時預かりのサービスをしてほしい。
- ・ヨガマッサージや幼児教育などのイベントを増やしてほしい。
- ・おもちゃの種類を増やしてほしい。
- ・男性の職員がいると父親も利用しやすい。
- ・小さな子どもが安全に遊べるようにしてほしい。
- ・なかよしひろば以外の室内の遊び場がほしい。

Ⅲ 経済的支援に関すること

- ・おむつやミルク，離乳食，ベビーサークル，カタログギフトなど
- ・保育料（算定方法の見直しなど）

Ⅳ 子育て支援情報に関すること

- ・子育て支援サービスとしてどんなサービスがあるのか，自分が対象になるのか調べるのが大変。なかよしひろば等で知れるといい。よいタイミングでタイムリーな情報をもらいたい。

Ⅴ その他

- ・三里塚地区に認定こども園や一時保育、病児保育施設などがほしい。
- ・三里塚地区に子ども館のような小学生以上が遊べる施設があると良い。
- ・公共交通機関を利用する際の子連れに対する周囲の理解が少ない。
- ・キッズスペースが併設されたカフェなどの施設がほしい。
- ・小児科を受診しやすくしてほしい（耳鼻科や皮膚科なども）。
- ・幼児や小学生が遊べる遊具がある公園があると良い。
- ・夜間保育が対応できる施設があると便利。

（３）子育て当事者ワークショップ

もりんぴあこうづにおいて，成田市在住の中学生までの子どもをもつ保護者を対象に，ワークショップを開催した。

1.実施概要

項目	内容
実施日時	令和 6 年 7 月 16 日（火）10:00～11:30
場所	もりんぴあこうづ 会議室 D
対象	成田市在住の中学生までの子どもをもつ保護者
参加者	11 組
ファシリテーター	子ども館職員 1 名 公津の杜なかよしひろば職員 1 名 市職員 1 名
全体テーマ	「子育てしやすい成田市にするには？」
目的	「成田市こども計画」の策定にあたり、子ども・若者・子育てに関する取り組みを総合的に推進するため、当事者である子育て世代の目線・立場から普段の生活で感じている子育てへの思いや意見などを聴取すること。
参加者の募集方法	広報なりたや市公式 LINE 等にて周知

2. 当日のプログラム

事務局より説明

- ・ 進行する少子化の現状と、成田市の課題について説明
- ・ 成田市で実施する子育てに関連する取組みについて紹介

グループワーク①

テーマ「子育てしやすい成田市にするには？」

- ・ 各グループにて、市内で子育てをする中で感じる「うれしさ・たのしさ（魅力）」と「もやもや（課題）」について意見・アイディア出しを行った

グループワーク②

テーマ「特に成田市が力を入れたほうが良い具体的な取組み」

- ・ グループワーク①で出た意見を参考に、特に成田市が力を入れたほうが良い具体的な取組みを検討した（成田市への提言）

発表・総評

- ・ グループワーク②で検討した内容の発表を行った

3. グループワーク①の結果

<A グループ>

うれしさ・たのしさ（魅力）
・ 豊かな自然が残っている ・ 道が広くて安心 ・ 歩いて行ける大きな花火大会がある ・ お祭りやイベントが多い ・ 息子が給食がおいしいと言っている ・ 医療費が高校生まで助成してくれるのはありがたい ・ 坂田ヶ池公園が素晴らしい ・ 空港があることで活気がある
もやもや（課題）
・ 一時保育における利用日数などの制限が厳しい ・ 公園の遊び方に対する制限が厳しすぎる ・ 公園の修復が遅く危険。あるだけで遊べない公園が多くある ・ 給食費が全学年で無償化されておらず負担 ・ 雨の日に遊べる施設が少なく、商業施設が混雑する ・ ネオニコチノイドの農薬散布をやめてほしい ・ 給食の牛乳を廃止するのと、パンは米粉にしてほしい

- ・オーガニック給食を進めてほしい
- ・学校からのお知らせが分かりにくい時が多々ある
- ・高校生から大学生世代への支援が手薄である
- ・成田駅のイルミネーションには違和感がある
- ・公園の時計をなくさないでほしい
- ・月曜日も図書館を開館してほしい
- ・成田駅西口にもスーパーがほしい
- ・部活動がなくなるのが不安
- ・こども宇宙プロジェクトは親も参加できるようにしてほしい
- ・教育現場に見直しが必要

<B グループ>

うれしさ・たのしさ（魅力）

- ・小学校での英語の授業がとても良い
- ・イベントが多いので様々な文化などに触れる機会がある
- ・道路が運転しやすい
- ・図書館の本が充実している

もやもや（課題）

- ・市内にはたくさんの公園があるが、子どもが遊べない公園が多い
- ・公園の遊び方に制限が多すぎる
- ・ニュータウン地区の公園、緑道など古さが目立ち防犯面でも不安が多い
- ・空港にもっと気軽に遊びにいきたい。Nパスの特典を増やしてほしい。
- ・子育て世代への金銭的支援はWAON 交付しか目立った取組みがない
- ・保育園の登園ルールが厳しい
- ・育休中の人への保育園の退園問題がとても不便
- ・兄弟で同じ園に入れられず苦労した
- ・市で届けたい子育て支援の情報が分かりにくい、届かない
- ・子ども会や自治会が減少しコミュニティの希薄化が進んでいる
- ・シビックプライドに差があるように感じる
- ・不動ヶ岡地区にも緑道がほしい
- ・子育て世代にふさわしい住宅が少ない
- ・空き家バンクが有効活用されていない
- ・子育てをするパパ・ママたちの居場所をもっと作ってほしい

<C グループ>

うれしさ・たのしさ（魅力）

- ・イベントやお祭りが多く、まちに活気がある
- ・成田山新勝寺など、有名な観光地がある
- ・市内に大きな公園が多い

・図書館が広くて使いやすい ・国際空港があつことで海外へのアクセスもある ・飛行機のあるまち、夢がある ・成田空港やさくらの山など、飛行機を身近に感じられる
もやもや（課題）
・市内にはたくさんの公園があるが、子どもが遊べない公園が多い ・公園の遊び方に制限が多すぎる ・ニュータウン地区の公園、緑道など古さが目立ち防犯面でも不安が多い ・空港にもっと気軽に遊びにいきたい。Nパスの特典を増やしてほしい。 ・子育て世代への金銭的支援はWAON 交付しか目立った取組みがない ・保育園の登園ルールが厳しい ・育休中の人への保育園の退園問題がとても不便 ・兄弟で同じ園に入れられず苦勞した ・市で届けたい子育て支援の情報が分かりにくい、届かない ・子ども会や自治会が減少しコミュニティの希薄化が進んでいる ・シビックプライドに差があるように感じる ・不動ヶ岡地区にも緑道がほしい ・子育て世代にふさわしい住宅が少ない ・空き家バンクが有効活用されていない ・子育てをするパパ・ママたちの居場所をもっと作ってほしい

4. グループワーク②の結果

「子育てしやすい成田市」に必要な具体的取組み

A グループ
・学校教育・システムの見直し（先生の残業、部活の外部委託、英語教育の強化・効率化、フリースクールなど） ・給食のオーガニック化の推進 ・子育て世帯に向けた取組みに対して税金を投入する（公園など子供の遊び場、教育・施設の拡充など） ・子どもの健康増進に取り組む ・条件なくあずかれる保育施設を確保する
B グループ
・市役所の男性が育児や介護についてもっと学ぶ。育児休暇は最低1年取って、子育て・介護を職員自身がしっかりと行う。 ・産後ケアを充実する ・公園が時代に合っていないので、子どもが遊べるよう整備を進める（駐車場なども含む） ・自由度の高い学校を設ける

・子育て講座を増加させる。 ・子育てについて気軽に相談できる環境を整備する
C グループ
・公園の数は多いが安心して遊ばせられない公園もあるため必要な整備を行い、人のいる公園にする ・子どもの居場所が少ないため、各地区に複合施設を整備する ・子育て支援施策の周知を子育て支援アカウントを開設し、SNSで行う。 ・給食費の無償化、給付金など経済的支援を強化する ・子育て世代が住みやすい住宅地の整備を進める

3. 子育て支援関係団体等からの意見聴取

(1) 子育て支援関係団体アンケート

市内で活動する子育て支援団体に、ヒアリング等を実施した。
主な意見等については次のとおりである。

実施期間	令和6年5月24日～令和6年6月14日
回答数	9団体

① 子ども・若者が抱える課題として感じること

- ・危険と感じられることの制限による運動不足や経験不足、様々な能力の低下
- ・テレビや携帯、ゲームの普及での実体験の減少によるコミュニケーション能力や体力の低下
- ・公園や近所の気軽に行ける場所での交流の減少
- ・喧嘩やいじめなど子ども同士で解決できない問題が多い
- ・いじめ、不登校、虐待、貧困など
- ・小さい頃から社会や学校の管理やルールに締めつけられている
- ・安心安全を大人が言い過ぎることが子どものチャレンジの場を阻む
- ・小さい頃からの過干渉（親の心配）は子どもが主体的に考える機会を失い、自己肯定感を低下させる
- ・子どもの権利、虐待や体罰、困ったときの相談先等について具体的に子どもたちが知ることができる仕組み
- ・不登校児が行くことができる場の選択肢が少ない
- ・能力や個性に寄り添える人員の不足

② 子ども・若者と関わる際に大切にしていること

- ・子どもの権利の尊重
- ・一人ひとりの声を聴き、子どもの年齢や能力に合わせた対話をする
- ・相手の話を聞く姿勢（言葉・表情）
- ・答えはひとつではない、自発性を生み出す、個々の達成感に寄り添い承認する
- ・子どもの感性を大切にする、大人の価値観を押し付けない
- ・一人ひとりが大切な存在で人と違っていい
- ・個性を大事にする
- ・発達段階は様々であること
- ・危ないことや間違ったことに対しては、人格を否定するのではなく行動に必要ながある時に介入する
- ・保護者に年齢に応じた必要なことを伝える
- ・関わる大人が専門知識を学ぶ

③ 活動上の課題

- ・活動資金不足（法人格でないと受けられる助成金が少ない。継続的な資金集めが難しい）。
- ・人材の確保（無償のボランティアの確保は難しい。子どもの発達に適した支援を行うための専門職員の配置。子どもの人数に見合った人員の配置。若手のボランティアの参加が必要）
- ・活動場所の確保（予約手続きが煩雑。会場利用料がある。施設管理者側の雰囲気、理解を得るのに時間を要する。水遊びなどは会場の制約がある）
- ・開催日の設定（土日や平日夜の開催希望もあるが現状は平日昼に開催している）
- ・イベントや子育て支援情報の周知の方法

④ 活動にあたり必要な支援

- ・イベント開催や研修費，活動に関する経費の助成（申請不要な報奨金など）
- ・活動場所の確保
- ・人材の確保
- ・広報の協力
- ・子育て家庭が支援を選択できる，子育て支援情報を提供できる仕組み
- ・定期的な連絡会の実施（民間団体と行政や，民間団体同士で情報共有し，連携を強化する目的）

⑤ 子ども・若者への支援についての意見や提案

- ・金銭的なバックアップ
- ・効果的な広報の方法はないか
- ・子どもが思い切り遊べる場所の提供
- ・地域の子どもへの理解
- ・公園を利用しやすい環境づくり
- ・室内の遊び場・スポーツ施設（予約なし、低料金で利用できる場所）
- ・子ども達とその家庭へ必要な支援が届くように，民間団体と行政との連絡会やテーマごとの情報交換の実施
- ・どうしたら家庭へ子育て支援の情報が届くのか，どうしたら家庭が支援を利用しやすいのか等を検討してもらいたい
- ・未所属の児童のいる家庭に対しての支援強化
- ・配慮が必要な子どもたちに関わる保育者や支援者への研修
- ・成田市の子どもの声を聴く機会を継続できるシステムを作してほしい
- ・赤ちゃん親子（母親が就業する前に）に子どもの成長を理解する時間が必要
- ・民間学童への補助金制度
- ・教育支援センターふれあいルームのような不登校の子どもか通える場の増設
- ・親や先生ではない子どもに寄り添う大人の存在が大切
- ・若者の居場所には WIFI は必須
- ・官民連携した子どもの居場所づくりの推進

(2) 児童福祉施設ヒアリング

市内にある児童福祉施設 2 施設に、ヒアリングを実施した。

主な意見等については次のとおりである。

- ・施設は、児童相談所など、主に県の関係機関と連携して運営している。市が提供するサービスの利用は少ないが、こども発達支援センターの利用を行っている。
- ・入所児童のよりよい発達訓練のため、一部の入所児童のこども発達支援センターの利用希望があるが、二重措置等となるため入所者が利用できない事案も生じている。
- ・一部の施設については、市が実施するショートステイの受入施設となっていたらいい。
- ・年度末に向けて入所児童が増える傾向にあり、ヒアリングの時点では待機等は生じていない。
- ・入所児童への対応は、個々の状況に応じての対応となるが、多様化していると感じている。
- ・入所児童が抱える事情は様々であり、苦慮している面もあるが、児童に寄り添った対応をしている。
- ・国では、施設養育だけでなく家庭養育を推進しており、将来的には市のこども家庭センターと連携することが考えられる。
- ・市内に里親家庭が 10 家庭程あり、ショートステイの受入れが可能な家庭もある。

(3) 子ども食堂運営団体ヒアリング

市内で子ども食堂を開催している 4 団体に、ヒアリングを実施した。

主な意見については次のとおりである。

① 現状

- ・フードバンクを利用し、お米などを調達できている団体がある一方で、寄附等がなく、お米以外はすべて自費で購入している団体もあった。
- ・食材の調達はフードバンクのほか、食料供給会社や地元の農家の方からも提供されている。
- ・運営スタッフはすべてボランティアの方で成り立っている。地元の他団体から協力を得て運営している団体もある。
- ・子どもの居場所づくりや地域住民の交流などに寄与できていると考えている。
- ・寄附等で収支が成り立っている団体が一部あった。一方、収支が赤字となっている団体が多かった。
- ・駐車場の確保に苦労している団体があった。
- ・居場所を確保するため、もっと広い場所を希望する団体もある。
- ・設備が故障した場合や備品等の更新が必要となる際に、資金が必要となる。

② 必要な支援

- ・運営費の助成

(食材や光熱費，備品など。ボランティアの方は交通費も自費となっている。)

- ・食材管理用の冷蔵庫や冷凍庫の購入，更新を進めたい。
- ・様々な団体との連携できる場を設けてほしい。

③ その他

- ・資材（机）などの無償提供があり子ども食堂を始めることができたが，そういったものがなければ，始めるのに難しい面があるのではないか。

4. 全市民を対象とした意見聴取

本市のホームページにおいて、全市民の方を対象に意見を募集したところ、合計 12 件の意見があった。寄せられた意見については次のとおりである。

実施期間	令和 6 年 5 月 10 日～令和 6 年 6 月 10 日
回答数	12 件

① 認定こども園・保育園・幼稚園

- ・図書館や駅ナカ、市の施設内に市が運営する託児所を設けてほしい。
- ・一時保育を利用できるようにしてほしい。
- ・人材確保のため保育士の処遇改善を行ってほしい。
- ・認定こども園・保育園・幼稚園の申込時に市役所に提出する書類について、WEB での提出を可能としてほしい。

② 学校

- ・各学校の PTA について、「任意加入であること」「入会届及び退会届を整備すること」を徹底してほしい。

③ 子ども館・なかよしひろば

- ・子ども館をバリアフリー化してほしい。または、なかよしひろばを 1 階にしてほしい。
- ・未就学児が思いっきり頭と体を使って思う存分遊べる場所にしてほしい。
- ・おもちゃは家では取り入れづらい流行りの知育玩具を購入してほしい。
- ・天候に左右されず、子どもが飽きない場所がほしい。
- ・子ども館については移転新設が必要に思う。
- ・子育て世代が集まる商業施設エリア、成田郵便局あたりに公民館や図書館なども集約するとよいと思う。ホールなどがあるとイベントができて良い。

④ 公共施設

- ・ニュータウン地区の図書館や公民館など、施設の老朽化が目立ってきているため新設してほしい。
- ・雨の日でも子どもが広々のびのび思い切り身体を動かして遊べる施設、子どもが靴を脱いでゆったり絵本を選べ、座りながら読める広い図書スペース、清潔なベビールームなどがある施設が欲しい。

⑤ プレーパーク

- ・常設のプレーパークがあるとよい。
- ・開催場所と開催日が少ない。
- ・もっと周知してほしい。

⑥ 公園

- ・ニュータウン地区の公園の遊具やトイレなどの老朽化が目立つ。暗い場所もあり、安全面が不安なため、明るく安全な公園への整備をしてほしい。
- ・小さな子ども 0～3 歳が遊べる遊具が少ない。
- ・インクルーシブ公園がない。
- ・文科省の「幼児期に身につけたい 36 の基本動作」を満たせるような公園，遊具が少ない。
- ・近隣公園は似たような遊具のため，移動しても似たような遊びしかできない。
- ・遊具がたくさんある大型の公園が少ない。充実させてほしい。
- ・公園にカフェ等を併設し，大人も子どもも一緒に楽しめるとよい。
- ・公園にフードトラックを誘致するのはどうか。

⑦ 子育て・育児

- ・雨の日や猛暑の日でも遊べる，低年齢児の室内の遊び場がほしい。
- ・室内の遊び場については，入場の年齢の上限があると上の子を連れていけない問題があるため、保険証などで家族であることの証明の提示とルール（激しい遊びをしないなど）を決めて家族も一緒に過ごせるようにしてほしい。
- ・高額になりすぎない「有料産前親子宿泊施設」が分娩施設の近く（理想は併設）にほしい。期間は 1～3 か月，食事に困らずランドリー併設，上の子の通学や登園ができる環境がほしい。
- ・第二子以降の保育料を無償化してほしい。

⑧ その他

- ・不登校児や経済的理由により塾に通えない子どもたちの実態を把握し，無料塾を開講するなど学習支援をしてほしい。
- ・「ここで子育てしたい！」と思わせる目玉支援があればいい。